

〔国際会議発表〕

発表研究者	広島大学大学院 助教 清家 美帆	2202102
参加会議	10th International Conference Tunnel Safety and Ventilation – New Developments in Tunnel Safety	
開催場所	Graz, Austria (virtual)	
出張期間	2020 年 12 月 1 日～12 月 3 日	
発表論文	Evacuation locus in a full-scale tunnel experiments	

概要：

本論文を 10th International Conference Tunnel Safety and Ventilation で発表する目的は、貴財団で助成いただいた『人間と機械の調和の促進』を考慮した世界的に新しい研究を発表し、日本の研究、技術について世界に引けを取らないことを示すことであり、EU 諸国での問題解決のため、国際共同研究につなげることである。本会議は 2 年に 1 度の希少な会議であるが、申請者は今回、本会議に 10 年連続で、7 回発表（5 回：第一著者、2 回：第二著者）した。今回が 7 回目の採択であるが、日本側から連続で出席している参加者として、申請者が最多回数を記録し、Chair の Sturm 先生からも、Frequent speaker として紹介された。今回残念ながら Online 開催だったが、継続的な発表によって人脈を維持することができた。当初の 6 年間は、研究自体興味を持たれなかったが、前回の発表では、発表後に数多くの Professional に数多くの質問を受け、それでも終わらず、Coffee break でも多くの質問がなされた。トンネル火災安全の非常用設備に関して共同で実験したいとの打診もあり、国際共同研究のシードとなるような深い議論が始まったばかりである。ハイレベルな中で日本の技術力・存在感をアピールできる数少ない場であるため、EU 各国はトンネル大国日本の動向に非常に興味をもっているが、理解、受諾されるまでに時間が必要であった。今回 10 年目の節目を迎え、Online でもつながりを確信し、継続的に参加でき、非常に有意義であった。

得られた成果は、Chair の Sturm 教授から本テーマに関する論文へ招待され、MDPI の論文に掲載された。Online であっても、国際研究者・技術者の育成の経験を積むことができた。